

昭和60年度奨励金および山本賞贈呈式等について

日時 昭和60年10月30日(水) 13:00~14:10
場所 大阪市西区靱本町1丁目8-4 大阪科学技術センター大ホール

次第

1. 理事長挨拶

花房理事司会のもとに山元理事長からおおむね次のような挨拶があった。

(1) 中国気象学会代表団の訪日について

中国気象学会の代表団5名が日本気象学会の招へいにより訪日され、北海道、東京、筑波、名古屋、京都、大阪と各支部、気象庁諸機関および大学を訪問されて友好の実をあげられた。

今後も引き続いてなんらかの方法で両国の気象学会、気象学者が交流を深める方向で対策を検討したい。

(2) 国際学術交流について

本学会では国際学術交流委員会を一昨年発足させて次のような活動を行ってきた。

ア. IAMAP 85について

今年の8月ハワイで開催されたIAMAP 85の総会に参加する若い会員に若干の補助を行った。

また、4年後のIAMAP 総会を日本で開催したいということを春の大会でお話したが、残念ながらIAMAP 89の総会は太平洋地域の総会が続くということでイギリスに決定した。さらに4年後の総会については日本での開催の可能性が高いと考えられる。

イ. インドの長期予報100年記念国際セミナーについて

最近インドの気象学会から標記のセミナーを来年4月に開催したい旨連絡があり、イギリス王立気象学会、アメリカ気象学会と並んで本学会にも後援依頼の申し出があった。理事会にはかり共催することを承認した。同時に1名乃至2名の専門家を派遣してほしいということなので、選考して派遣するよう準備を進めている。

(3) 短期、中期の数値予報シンポジウムについて

来年8月にWMOとIUGGの主催で気象庁において短期、中期の数値予報シンポジウム

が開催される。

日本気象学会も後援するというので、シンポジウムのプロシーディングスを気象集誌の特別号として出版する方針をかため準備を進めている。

(4) 名誉会員の推薦について

日本気象学会定款に名誉会員を推薦する項目が、ここ十数年間名誉会員を推薦する機会がなかった。このたび理事会で、学会の活動および気象学の発展に寄与された会員から2、3名を名誉会員に推薦することを提案したいと準備を進めている。近く天気公示し、来年の総会で推薦をお願いしたい。

(5) 会員数の動向について

会員数の動向が直接予算にひびくので、理事会でも真剣にこの問題に取り組んで案を練っている。会員からのご意見を期待する。

2. 昭和60年度日本気象学会奨励金贈呈式

奨励金受領候補者選考委員会委員長から選定理由の説明があって、事理長から次の会員に賞状と奨励金が贈呈された。

(1) 中田隆一会員(神戸海洋気象台)

瀬戸内海における海陸風、主として収束雲の研究

(2) 水野量会員(仙台管区気象台)

地域気象の解析

(3) 名越利幸会員(東京都八王子市立第一中学校)

八王子の局地気象

3. 昭和60年度山本賞贈呈式

山本賞候補者推薦委員会委員長から選定理由の説明があって、理事長から次の会員に賞状およびメダルならびに賞金が贈呈された。

(1) 1983年分: 山内恭会員(国立極地研究所)

南極みずほ基地における入射太陽光と雪面のアルベードの太陽天頂角や雪による変化

(2) 1984年分: 高橋正明会員(九州大学・理学部)

赤道中層大気における東西風の半年周期振動のモデル

4. 昭和60年度山本賞受賞記念講演

受賞者山内恭会員及び高橋正明会員による受賞記念講演があった。